

わたしから始める、世界が変わる

# Hunger Zero News

2022. 3  
No.380

ハンガーゼロ・ニュース

1分間に17人 (内12人が子ども)  
1日に2万5,000人が  
1年間では約1,000万人が  
飢えのために生命を失っています



## Contents

活動報告 / FH インドネシア  
統合農業・栄養バスケットプロジェクト P.2-3

活動報告 / ハンズ・オブ・ラブ・モザンビーク  
コロナ試練の中でも活動は着実に前進 P.4-5

チャイルド・サポーター  
家族のストーリー、短期サポーター募集他 P.6-7



## 統合農業・栄養バスケットプロジェクト

ハンガーゼロの現地パートナー、FHインドネシアの支援地であるメンタワイ諸島のシブルット島の集落では、環境に適合する農業の知識や技術、また栄養や健康的な食事に関する知識の不足が原因で、発育阻害の問題がありました。そこに新型コロナウイルス感染症の大流行が起こり、元々危機的な状況にあった家庭、特に妊娠・授乳期の女性や子どもたちが必要な栄養を取ることがさらに困難になりました。

それぞれ自分の敷地で小規模統合農業を実施しました。まず養鶏を始め、その後ほうれん草、からし菜、チンゲン菜、パパイヤ、なす、唐辛子、カイエンペッパー、豆、ミニトマト、インゲン、落花生、スイカ、キュウリなど多様な野菜を栽培するようになりました。定期的に会合を持って、肥料の作り方や害虫駆除、家畜の管理や野菜の栽培など農業経営に必要な知識を共有し、新しい技術の習得に努めています。

### 食料支給依存からの脱却を目指す

### 【参加者①】 育てた野菜は販売もできて収入にも

「統合農業・栄養バスケットプロジェクト」は、野菜の栽培と養鶏をセットにした小規模統合農業の研修を通して農家の能力構築に取り組むこと、又啓発活動や料理教室を通して、生鮮食料品の摂取が健康にとっていかに大切かについて人々が理解するすことを軸としています。この取り組みが目指しているのは、地域内での食物の供給を持続可能なものにする、地域の経済成長と開発を後押しし最終

参加農家の1人であるマリアニさん(45歳)は、「農業支援の取り組みに参加したことで、家計が助かっています。野菜を買うのに夫が稼いだお金を使う必要がなくなったんです。それだけでなく自分で育てた野菜を売って収入を得ることもできるようになりました。自分で肥料や培養土が作れるようになり、害虫の駆除もできるようになってとても嬉しいです」と語っています。



的には、毎週本土から船で支給される食料品に頼る必要がなくなることです。

この取り組みには141世帯が参加し、その内67世帯の農家が

### コロナ感染から守る「緊急救援募金」に応援をお願いします

募金は、郵便振替又はウェブサイトからクレジットカード決済が利用できます。  
ウェブサイト <https://www.jifh.org> ※ハンガーゼロで検索又は右 QR コードから  
郵便振替 00170-9-68590 日本国際飢餓対策機構 ※記入欄に「緊急救援募金」と明記  
募金集計: 12月末日現在で約1,279万円、皆さまの応援を心より感謝いたします。



スマホから募金ページに

## 【参加者②】 様々な新しい知識を得ました

また、同じくこの取り組みに参加しているバレンティナ・スレイさん(42歳)は、「これまではバナナの木やマンゴーの木の下に野菜を植えていましたが、日光が当たる場所に植えることが大切ということを知りました。一緒に参加している人たちとの交流を通して他にも様々な知識を得ることができました。ある参加者は、自分の体験から『鶏が病気で死んだ時は、健康な鶏を小屋に隔離することで病気の



蔓延を防ぐことができる』という知識を共有してくれました」と語りました。

このように、取り組みに参加した女性は1年を通して様々な野菜を摂取できるようになり、自分で育てた野菜を売って収入を得られるようにもなりました。会合で「発育阻害」について学び、妊娠・授乳中に野菜から栄養を摂取することがいかに重要かを理解しました。

## 【参加者③】 妊婦にとって大切な知識を学べました

会合に参加しているアドリアナさん(38歳)はマイルペット集落に住む2児の母親です。「妊娠中や授乳中の女性にとって野菜を摂取することがいかに大切か、会合に参加するまでは全く知りませんでした。母乳で育てる重要性についての知識もなく、それを意識したこともありませんでした。最初の子の時には、生後6カ月にならないうちから普通のご飯を食べさせていましたし、私自身もほとんど野菜を食べていませんでした。でも今回の妊娠では同じ過ちは繰り返しません。妊娠期間中に女性のグループの会合で勉強しましたし、料理教室にも参加しましたので、野菜を摂取す

る大切さについてたくさんの知識を身に付けることができました。

子どもを母乳で育てること、生後6カ月を過ぎた子どもには離乳食を食べさせることなど、子どもたちの健康についても学びました。うちの子は今生後4カ月ですが、母乳で育てています。インドネシアの伝統的なスープのソト、チキンスープ、魚のスープ、果物のスープ、キャッサバの葉の揚げ物など、以前は作れなかったいろいろな料理を作ることができるようにもなりました。世の中には本当にたくさんの調理方法があるんですね。今回は産後に野菜をたくさん食べたことで、めまいが減りました」と語りました。



## 地域と関係者との連携を深めていきたい

この取り組みの目標は、3年後には集落内で持続可能な供給の連鎖ができていることです。そのために、今後は小規模農家の経済状況を向上させて貧困が軽減できるよう取り組みます。それは同時に、地域内でさまざまな食料が入手できるようになることでもあります。このプロジェクトに参加している農家グループが、品質と量の両方で生産性を向上し、市場にアクセスできるようになって市場での販売力を得ること、その2つを実現するために今後、政府・民間を問わず地域の関係者との連携を深めていきます。最終的には集落内の農家が、市場、販売業者、加工業者のすべてと自由に取引できるようになることを目指してこれからも支援を続けていきます。

ハンガーゼロサポーターとなって、  
バングラデシュのプロジェクトをご  
支援ください。スマホでQRコード  
を読み取り公式HPに入れます▶



ロングライフタウン寝屋川公園 フィレンツェの丘

## 私たちロングライフグループは、 ハンガーゼロの活動を応援しています。

ロングライフは1986年の創業よりケアサービスひと筋。全国に展開しています。



Health & Natural Beauty

ロングライフグループ



0120-550-294

受付時間  
9:00~18:00  
年中無休

大阪本社 / 〒530-0015 大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階 東京本社 / 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル9階  
ロングライフグループ拠点: 北海道 / 埼玉 / 東京 / 神奈川 / 千葉 / 静岡 / 愛知 / 大阪 / 兵庫 / 京都 / 大分 / 沖縄 / 中国 (青島) / 韓国 / インドネシア (ジャカルタ)

2015年に始まったモザンビークのプロジェクトは今年で7年目となります。モザンビークをはじめとするアフリカ諸国は、肌で感じるようなパンデミックの影響は全くなかったため、どこか遠い国の伝染病という印象だったようです。しかしながら「コロナ対策」の影響は半端ではなく、学校も教会もビジネスも長い間閉鎖となり、オンラインクラスも給付金もない国民にとって大打撃でした。2021年半ばから小学校から大学までが再開となり、モザンビークは少しずつ日常を取り戻しています。このように何かと制限が多かった1年ですが予期せぬ神の祝福があり、プロジェクトは大きく進展しました。

【報告】 ローレンス綾子 (元モザンビーク駐在員)



## コロナ試練の中でも活動は着実に前進



つくためには職業訓練校が必要とと思っていましたが、予期せぬパートナーシップを通して扉が開かれました！来年以降もこのプロジェクトは継続されていく予定です。

### 奨学金制度で3人が大学で農業や医療を学ぶ

今年は3人の若者がハンズ・オブ・ラブの支援を受けて大学などで学んでいます。



### 312人が職業訓練コースを無事修了

ゴロンゴザ国立公園の地域支援プログラムの応援により、ハンズ・オブ・ラブのセンターで職業訓練コースが実施され、312人がコースを無事修了しました。コースは1) 配管工事・溶接 2) 電気工事 3) 裁縫の3つです。最後は実習で、私たちが用意した材料で鉄格子の設置と電気工事をしていただき、全部屋に照明が入りました！

ゴロンゴザは小さな町なので、いくら学歴が高くても就職するのは非常に難しいです。一方、電気工事などができる人が非常に限られていて、修理工などを確保するのに人々はいつも苦勞している現状があります。地元で仕事に



#### ●ペドロ (Pedro)

今年から専門学校に入学しました。彼は幼い時からずっとハンズ・オブ・ラブのミニストリーに連なっていて、勉学のために今年引っ越すまでリーダーとして仕えてきました。農業と林業を専攻しています。



#### ●マリア (Maria)

今年から2年間の看護学校に入りました。カラベティのリーダーシップの元で育ったジョゼの奥さんです。看護師として働くために学んでいます。



#### ●フランク (Franque)

彼とは2019年の緊急支援活動を通して出会いました。昨年カトリック大学に入学し、現在2年生。農業を専攻しています。



## ヤング ファーマーズ パートナーシップ Young Farmer's Partnership

現在でも世界の農地の大半は多くのアフリカの国と同じく家族単位のグループによって耕作されています。それぞれの家庭が与えられている土地を適切に利用することが最終的に飢餓を回避する道の1つです。

YFPは「ハンガーゼロ」の協力により、2020年にスタートしました。持続可能な農業とは、地元政府とも協力し、社会的に公正であり、経済的にも収支が見合うものです。本プロジェクトでは、若者を中心としたグループを形成して一つの循環型農場をモデルとして作り上げていき、それをコミュニティの人に見てもらって、適用する家庭を増やしていくのが願いです。



参加している若い農夫たち、中央はリーダーのジョン牧師と家族



YFPの農場の一部、みんなで開墾してよい農地になりました。

2021年は前年に続き、トマト、玉ねぎ、紫玉ねぎ、レタス、ピーマン、とうもろこし、ピーナツなどを植えました。またピーツに挑戦し、良い収入を得ることができました。農業技術としては水やりを軽減できる新しい畝の作り方(水やりがいつも課題です)やコンパニオン・プランツ(お互いの栄養素を補完するものを一緒に植えること)などを新しく取り入れました。

2021年に初めて行ったのは、ワークショップです。野菜の栄養、薬草について学んだり、植物から塗り薬を作ったりしました。参加者は学んだ後にモリンガやよもぎの粉、ユーカリの塗り薬などを各家庭に持ち帰りました。また薬草の写真と効能が書かれている大きなポスターも受け取りました。野菜を作っても収入を得ても、それが家族の幸せと健康の向上につながらなければ意味がありません。私たちはより良い生き方とは何かを一緒に再確認しました。



【植物を薬用にする学び】  
パイアの樹液を採取して怪我の治療に用います。

### 新型コロナの影響で幼稚園の開園は来年に

ハンズ・オブ・ラブ・モザンビークが焦点を当てているのは小さな子どもたちの教育です。このため2021年までに幼稚園開園を目指して、まずは1クラス30人から始めることを願っていました。ところがコロナで幼稚園は最近まで全国一斉に閉鎖されてしまいました。コロナ対策によるアフリカの教育分野のダメージは計り知れないものがあり、憤りを覚えるほどです。来年こそはスタートできることを期待しています。そのような中でセンターの建築が進み、電気が付き、鉄格子も設置でき(防犯のため)、より良い状態で子どもたちを迎えられるようになったことは感謝です。まだペンキ塗りなど他の工事が残っていますので、引き続き応援をよろしくお願い致します。

今年もご支援くださり、1年間支えてくださった方々、また過去にご支援くださった方々、本当にありがとうございました。チャレンジも色々ありますが、この6年間で人々の生活がここまで変わることができたのは奇跡以外の何ものでもなく、神様と皆さんに心より感謝しています。



イエス・キリスト エクレスΙΑ  
よろこび研究会

真理はあなたを自由にします。ヨハネ福音書8章32節

— この御言葉を中心として「よろこび」を学んでいます —



真理のことばで“よろこび”をお届けしています。  
① 聖書、みことばをわかりやすく  
② 日常生活に適用できるように  
③ より実践的に

毎月新たな聖書箇所を読み、お一人お一人の状況に照らしてメッセージをしていきます。初めての方でも大丈夫です。共に学び、よろこびを探求しましょう。

メッセージ：奥田英男 【参加自由・無料・席上献金有り】



<http://yorokobi-lab.com/>

Info@yorokobi-lab.com 042(553)0511 (オクダ建設内)

家族の  
Story  
ストーリー

極度の貧困から抜け出すことを目指して、FHルワンダは脆弱な家庭が収入を生み出すことができるように支援をしています。その中でルワンダ南部のルアンゴ郡ムウェンド地区サルヘシ集落では、29歳のエチエネさん家族（妻と4人の子ども）がミシンによって収入を得ることが出来ました。ミシンがエチエネさん一家の生活にどのような影響を与えたか報告いたします。

■ ルワンダ／エチエネ・アヒシャキエさんの家族

## 子どもたちはもう栄養失調にはなりません

### FHの活動に参加する前

エチエネさんの妻アガテさんは仕立ての技術を持っているにも関わらず、家族は毎日の食料や布など必要なものも手に入れることが出来ませんでした。

エチエネさんは「FHがこの村を訪れる前は、いつも食料不足に悩まされていて子どもたちの栄養失調や衛生の問題もあり、最低限必要なものすら買うことが出来ませんでした。収入を増やすために一生懸命に働きましたが、必要なお金は足りず、子どもたちや今後の生活のことを考えると絶望的でした。毎日何が起るのかと不安を抱えて過していました」

### FHの活動に関わって

エチエネさんは、2020年にFHが村にきてからすぐに活動に参加して、貯蓄活動を通してビジネスを始める際の資金作りに必要な貯蓄と貸付の知識を学んでいます。また家族の主な収入源は農業でしたので、堆肥や家庭菜園作り、家畜の飼育の仕方について学び、改良型の農業技術を教えてもらっています。地域にはボランティアグループが形成され、教育の大切さやよい衛生習慣を伝えて各家庭で実行できるように活動を行っています。

エチエネさんは「私の家族の生活はミシンを受け取ってから大きく変わりました。妻の仕立て業で得た収入で家族に十分な食べ物や子どもたちの学用品、健康保険への加入、また生活するために必要な最低限のものを購入するこ



とことができました。FHとサポーターさんのおかげです。今は、以前のように栄養失調になることはありません。また子どもたちは必要な学用品を持って学校に通うことが出来るので、成績も良くなっています。食料、石鹸、衣類なども買えるようになりとても嬉しいです。以前と比べると大きな変化です。私たち家族は平和でとても幸せです。サポートしてくださっているチャイルドサポーターさんに心から感謝しています。サポーターさんの支援によって、私の家庭は多くの恩恵を受けました。神様が日本の支援者の皆さんにたくさんの祝福を与えてくださいますように」

### 妻のアガテさんの夢

「仕立ての技術を向上させたいです。私には、様々なスタイルの服や縫い方を学んで今よりも多く稼げるようになりたいという夢があります。そして新型のミシンを購入したいです。もう栄養失調になることはありません。私の子どもたちもみんな高校を卒業するまで勉強をがんばると言っています」

備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう

救缶鳥  
Kyu-Can-Cho

皆様から回収された救缶鳥は  
各地に飛んでいきました！



食料が不足している、  
国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、  
海外の飢餓地域等へ送られました。



おいしさとお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰  
since 1995

〒329-3147

栃木県那須塩原市東小屋295-4

TEL 0287-65-3351

パン・アキモト

検索



カンボジア・スバイルー集落

## 短期チャイルドサポーター募集中!

申し込み締め切り：2022年9月末



2014年にカンボジアのスバイルー集落における支援活動が開始されて、2024年には10年になります。そこで2024年の9月末には、ハンガーゼロの手を離れて現地の人々の手に渡され、貧困からの「卒業」を迎える予定です。チャイルドの支援も、2024年9月末で終了を迎えます。

チャイルドサポーター事務局では、集落の卒業まで残りあと2年となる中で、まだサポーターさんのいないチャイルドを応援するために「短期チャイルドサポーター」さんを募集します! 支援していただく期間は、1~2年です。

チャイルドサポーターに興味はあっても支援を続けていける自信がない、という方にも始めていただきやすい期間です。子どもと個人的なつながりを持つことを通して、支援を待っているチャイルドに愛と希望と喜びを届けてくださいませんか。

- チャイルドの住んでいる場所：スバイルー集落  
バンミリア、チャンヒア、トイチャイ
- チャイルドの対象年齢：5~16歳
- サポーターを待っているチャイルド：45名
- お申し込みはホームページ又は電話にて  
事務局 Tel: 072-920-2226 で受付しています。



公式HP



## 大好評!チャイサポハロハロWEBを開催します

Zoomでどなたでも参加できるオンラインの現地活動報告会  
チャイサポハロハロの参加者を募集しています!

報告/ボリビア駐在員：小西小百合ほか

- 日 時：2022年3月12日④午後2時~3時半
- 参加費：無料
- 申し込み資格

チャイルドサポーター、またチャイルドサポートに関心のある方なら、どなたでもどうぞ!

※インターネット環境のある方 (Zoomを使用してのセミナーとなります)

## ■お申し込みは

WEBセミナー申込サイトから (スマホを使って下のQRからでも入れます)  
<https://forms.gle/RKxjXjHqGpJP8poB9>

## ■申し込み締切：3月9日(水)

## ■お問い合わせ

電話：03-3518-0781

メール：tokyo@jifh.org

ハンガーゼロ東京事務所 担当・中村まで





ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓蒙を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、18ヵ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。



**プレゼントにどうぞ!**  
**フェアトレードチョコレート**

チョコレート2個 1,000円  
種類はおまかせ。ハンガーゼロへの寄付金、送料込。

スマートレターでポストへお届けします。簡易ラッピングでお届けしますがラッピング不要の際はお申し込み時にお知らせ下さい。

- 写真はサンプルです。
- 2個以上ご希望の場合はお問合せください。
- チョコレートが無くなり次第終了させていただきます。

**【お支払い】後払い**

**お申し込み:**

(株)キングダムビジネス  
スマートフォンは右のQRコードから



電話注文: 06-6755-4877

**書き損じ「年賀はがき」で協力**

書き損じた「年賀状」やポストに未投函のもの(書き込み、汚れのあるもの、私製ハガキは不可)、また消印のない「未使用切手」がありましたら、**大阪事務所までお送りください。**国内外の通信に用いさせていた



HANSOPLABPHILIPPINES  
**HOLPFI**  
**フィリピン台風  
パラワン島住民  
復興支援を実施  
～募金受付中～**

昨年12月フィリピン中部を直撃した台風22号の被災地の一つパラワン島口ハス県で現地住民(110世帯)の復興支援を行っています。

支援は、現地パートナーのハンズ・オブ・ラブ・フィリピン(酒井保スタッフ)を通じて、住民に家屋の補修資材(屋根や壁板、釘など)の提供を行うほかスタッフや大工も現地に派遣しています。

**【緊急募金の送金方法】**

緊急募金は、郵便振替又はウェブサイトで直接クレジットカード決済が利用できます。

●郵便振替 00170-9-68590

日本国際飢餓対策機構

記入欄に、フィリピン台風と明記

●募金目標: 300万円

**テレワークに移行しました**

ハンガーゼロは、オミクロン株によるコロナ感染が全国で拡大したことにより、各事務所で一部テレワーク勤務に変更しております。支援者様への電話対応、領収書発行、支援申し込みの手続きなどで、通常よりお時間をいただいております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。急ぎのご用件は、お電話でご相談ください。(事務局)

**Hunger Zero**の SNS ネットワーキング サービス

詳しくはこちら

YouTube Facebook Twitter Instagram LINE

国際協力に参加する活動の第1歩目として... YouTubeのチャンネル登録や各種SNSのフォローをお願いします!

**サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155**

フリガナ	氏名
(TEL)	
住所	〒
申込日	年 月 日 NL 380号

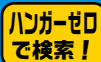
<input checked="" type="checkbox"/>	下記から希望されるものをお申し込みください
<input type="checkbox"/>	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月( )円 (1000円) ②一時募金として 円協力します。
<input type="checkbox"/>	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月( )円 (500円)
<input type="checkbox"/>	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。
<input type="checkbox"/>	郵便自動引落とし申込書を送って下さい。
<input type="checkbox"/>	その他の銀行自動引落とし申込書を送って下さい。

上の申込書をコピーして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にて大阪事務所までお送りください。届きましたら確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

Hunger Zero サポーター 現在... **5152**口

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス <http://www.hungerzero.jp>  
eメールアドレス [general@jifh.org](mailto:general@jifh.org)  
フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

- 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
- ①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構
  - ②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



- 大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1  
TEL(072)920-2225 FAX(072)920-2155
- 東京(広島) 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室  
TEL(03)3518-0781 FAX(03)3518-0782
- 愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-3 YWCAビル6F  
TEL(052)265-7101 FAX(052)265-7132
- 沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メソソク米202号  
TEL(098)943-9215 FAX(098)943-9216
- USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa  
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605  
TEL(510)568-4939 FAX(510)293-0940



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター

●Tポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに1,324,753ポイント(円)のご協力(23,026件)がありました。Tポイント募金で検索。  
●「つながる募金」はスマートフォンからご利用できます。募金は、ソフトバンクモバイル(株)経由となります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

※記入後にスマホで撮影し、下記メールアドレスにお送り頂いても受付いたしません。